

いなみ野ため池ミュージアムの位置

「いなみ野ため池ミュージアム」は、地形的な特徴から4つのゾーン（明石段丘ゾーン、いなみ野台地ゾーン、加古川扇状地ゾーン、里山・里池ゾーン）に分けています。それぞれのゾーンによって、ため池や用水路の開発の歴史の違いを見ることができます。

【ゾーンの概要】

ゾーン名称	凡例	ため池群の特徴	所在
里山・里池ゾーン		里山が育んだ水利ネットワーク	加古川市、高砂市
加古川扇状地ゾーン		加古川の水を活かした歴史が息づく水利ネットワーク	加古川市、高砂市、播磨町
明石段丘ゾーン		オニバスの風景が広がるため池群	明石市
いなみ野台地ゾーン		水利開発の歴史を凝縮した淡山疏水	稲美町、加古川市、神戸市、三木市

ため池のルーツ

世界のため池のルーツは南インド、スリランカにあり、最初のため池の築造は紀元前6世紀頃といわれています。中国では紀元前8～3世紀に、ため池が造られたことが記録に残っており、わが国のため池の歴史をたどれば、大陸からの影響を強く受けていることが分かっています。

ため池と稲作。日本には、約2千4百年前、中国から稲作の技術が伝わりました。古墳時代になると、中国や朝鮮の稲作技術を日本の気候・風土にあわせ、古墳と同じような方法で土を盛り固めるため池が登場しました。その後、飛鳥、奈良、平安、鎌倉時代になって荘園ができると、生産向上のためにため池の築造技術が広まりました。現在、全国にあるため池の半分以上は、それから後、江戸時代以降に造られたものです。また、明治6年の地租改正によって土地への課税が厳しくなると、綿畑などから水田への切り替えが緊急の課題となり、多くのため池が整備されました。

当初の技術の多くは朝鮮半島からの渡来人、中国大陸に渡った僧侶などによってもたらされたといわれています。いなみ野ため池ミュージアムでも紹介している五ヶ井堰は、大陸とも交流が深かった聖徳太子が築造されたと伝えられています。

また、百済系渡来人の子孫とされる行基（わが国初の大僧正）は、昆陽池（兵庫県伊丹市）やわが国最古といわれる狭山池（大阪府狭山市）など、数多くのため池を朝鮮半島などの高度な技術を使って築造・改築したと伝えられています。



西条組絵図（延宝4年、1676年）

